
ライトオアダークキャラによる邪悪混沌残虐暗黒円環悪魔神戦記

Light or Dark

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ライトオアダークキャラによる邪悪混沌残虐暗黒円環悪魔神戦記

【Nコード】

N5334Y

【作者名】

Light or Dark

【あらすじ】

ここは、ディケイド的な感じでライトオアダークキャラクターたちが交差する世界。平和な毎日を送っていたこの世界に、ある日暗黒円環悪魔神が来襲する！！破壊されてゆく街並み、続出する犠牲者……そんな最悪の事態を奪回するため、ライトオアダークキャラクターたちが手を組んだ！！最強の敵に立ち向かう、頂上決戦が今始まる……わけないだろっ！！

——要約：いわゆる超スピノフ。

注意書き

慎「はい、みなさんどうも始めまして！！『仮面ライダー：ブレイズ』主人公の穂村慎です！！」

あかり「始めまして！！ボクは『魔法少女まどか マギカ×オルフェノク - みんなで起こした、奇跡だよ -』主人公の南あかりと申します！！」

慎「まず最初に、盛大なタイトル詐欺、まことに申し訳ありません
あかり「うちのバカ作者が調子に乗ってつけたものですので、スル
ーしてください」

あかり「ちなみにこの作品自体調子に乗った作者の暴走ですので、
ご了承ください」

慎「それでは——」

一貴「（穂村さん、その前にどういう企画を紹介を——）」

慎「それをこの天野一貴君がいたしますので！！」↑引ッ張り出す
一貴「あ……はいっ。ええっと、これはライトオアダーク作品のキ
ャラクターたちがドタバタやるだけの、いわゆる『スピンオフ』の
流れを汲むものです」

まどか「更新すら気が向いてきたときだけっていう、相当身勝手な
作品です」

美咲「また、作者は厨二病をはじめ、様々な病気を抱えています」
さやか「そのため、酷いというレベルでは済まないほどのキャラ崩
壊が起きています」

マミ「そんな作品であることをご了承ください」

例←

ほむら「ほむほむっ、ほむほむほーむむっ、ほむほむほむむむ、ほむ」

恭介「例えこの作品のさやかがいくら可愛かろうと、さやかは僕の嫁です」

QB「これで読者のみんなが少しでも笑顔になってくれたら、僕たちはとっても嬉しいな」

杏子「どうしてこうなっちゃったか知りたかったら作者の過去の活動報告、『キャラ活報をやってみる』シリーズを参照してくれよな!!!」

美咲「丸投げだめーっ!!!」

慎「というわけで概要紹介を終わります」

あかり「続いて、第1回を始めたいと思います!!!では、その時に会いましょう!!!」

cross1 - 武器はよく性格を表す -

『仮面ライダーフォーゼは、ご覧のスポンサーの提供でお送りしました』

マミ「——ふう」↑TVを消す

マミ「フォーゼ、今週も面白かったわね……私も仮面ライダー部に入りたいわ!! あんな仲間たちが欲しいものね……」

マミ「でも今回の見所はやっぱり『ライダー爆熱シュート!!』ね。私もああいうのやりたいなあ——」

マミ「そうだ!!」

マミ「おい、美樹さん」

さやか「あ、マミさん。おはようござ——」

マミ「ライダー爆熱シュウウウウウッ!!」↑ティロ・フィナーレ

さやか「ぎゃああああああああっ!?!」

マミ「——ということなの」

さやか「↑焼き人魚

一貫「つまり巴さんは、フォーゼの必殺技の真似をしたかったと」
マミ「はい、同じ銃が武器だったのでつい……」

まどか「じゃあ、マミさんの武器が剣だったら——」

マミ「間違いなく『ライダー100億ボルトスラアアアアアアア
ッシュ!!』ってやっていたわね」

杏子「武器、ねえ……」

慎「どうした杏子？」

杏子「いやあ、アタシの武器って厳密に言えばなんなのかわかんねえじゃん」

玲「え、あれ、槍じゃなかったの？」

杏子「アイツは途中でバラバラに分かれて、チェーンで繋がってるからさ、多節棍にもなるんだよね」

あかり「ヌンチャク？」

杏子「いやだから多節棍だっつーの。まあ先っぽに矢尻ついてっけどさ」

あかり「じゃあ海軍用船上槍？」
フリウリスニア

慎「そこまで細かいとわかる人いねえと思うぞ」

さやか「あたしの武器はオーソドックスに剣だよ」↑癒しの祈りで復活

まどか「魔法少女の服装も相まって、なんか”剣士”って感じだよ
ね」

マミ「ライダーも剣を使うの多いわよね」

慎「完全に剣士がモチーフのキャラに限ってもナイトとかファムとかブレイドとかサソードとかたくさんいるしな」

ほむら「ほむほむっ！！」

QB「さやか、試しに使ってみないかい？僕の力を使えば仮面ライダーの剣を呼び出すことなんて朝飯前だよ」

さやか「あんたには騙されないよ！！どうせなんか代償があるんでしょ！！」

QB「もちろん、ただで叶える訳には行かない」

さやか「やっぱりね……だからこいつは——」

QB「今なら”カナエホーダイプラン”で、50円で願いが1時間叶え放題だよ」

さやか「やります」

ちゃりん

さやか「じゃあ、まずは……ブレイラウザーかな」

QB『ほいやっ』

しゅぽんっ ↑ブレイラウザー登場

さやか「おおっ、なかなかいいじゃんっ!!」

マミ「色も青だし、美樹さんにぴったりね」

さやか「ウェイッ!!ウェイッ!!あは、これいいわね、床にも刺しやすそうだし」↑TV5話参照

まどか「そういえばあれ、どうやってたの?一瞬でマントの中からたくさんの剣が出てきたけど」

さやか「あれは大変だったんだよー。マントの中で出しては刺し、出しては刺し……」

慎「ローテクかよっ!!」

さやか「じゃあ次は……タイタンソードで」

QB『そいやっ』

ぽんっ ↑タイタンソード登場

さやか「うわっ、やっぱ重いわね……さすがタイタンフォームの剣だわ。——おっと」
ぐさっ

あかり「うわあああっ!？」 ↑つま先まであと2ミリ
さやか「ごめんごめん、ふらついちゃって……ってあれ？」
まどか「どうしたのさやかちゃん？」

さやか「ぬ、抜けない……」

玲「抜けないの？」

さやか「はい、奥まで刺さっちゃったみたいで」

玲「どうしたらいいのかしらね……このっ」 ↑キック

美咲「タイタンソード蹴んなっ!！」

玲「あれ、なんか紋章出てきた」

慎「カラミティタイタン発動しやがったあ!？」

杏子「危ねえぞさやか!！さっさと逃げろ!！」

さやか「え、なんのはな——ぎゃあああああああ!？」

さやか「」 ↑再び焼き人魚

あかり「相変わらず不憫だねえ」

マミ「次は私ね。じゃあ、ギガランチャーで」

QB『えいやっ』

【shoot vent】↑ギガランチャー召喚

マミ「よっこいしょっと」(ジャキッ)

杏子「おお、こうして近くで見ると迫力すげえな、コイツ」
マミ「ようし」

マミ「ティロ・フィナーレ!!」↑カラス撃墜
美咲「うわっ、粉々になったっ!？」

マミ「凄いわ、まるでゾルダになったみたい!!」

一貴「まあそこまで似合う人も少ないですよね」

マミ「もう何も怖くないわ!!」

マミ「ティロ・フィナーレ!!」↑ハト撃墜

杏子「うおっ、吹っ飛んだんじゃねあれ!？」

マミ「ティロ・フィナーレ!!」↑スズメ粉碎

杏子「よく当てられんなあ」

マミ「ティロ・フィナーレ!!」↑ツバメ爆砕

杏子「やっぱりすげえなあマミは」

マミ「ティロ・フィナーレ!!」↑ニワトリ粉碎

杏子「食いもん粗末にするなああああああああ！！」↑
キョーコブランディング
マミ「きたおかつ！？」
あかり「Σニワトリだけに過剰反応！？」

杏子「じゃあ、次はアタシだな」

QB『何を出したいんだい？』

杏子「そうだな……じゃあいつちよ、ストームハルバード頼むわ」

QB『ヴェイツ』

杏子「ん？」↑ソウルジェム光ってる
シュルルル

杏子「おおっ、なんか出てきた！！」

あかり「原作再現！？」

杏子「よっこいしょっと、おおっ！！」ブンブン

杏子「めちゃくちゃ使いやすいじゃねえか！！」ブンブンブン

さやか「ふう、ひどい目にあった……」↑再び復活

さやか「おお、杏子なにしてんの？」

杏子「見てわかんねえの？ストームハルバード振り回してんだよ」
ブンブンブンブン

美咲「あれ、なんか風が出てきた……」

玲「ストームハルバードの力かしら？」

一貴「多分そうでしょうね。風の力ですから」

慎「何で冷静なのみんな！？風すごいぞ！？それにこんなに強い風が吹いたら……」

さやか「風が吹いたら？」

——ヒラッ

さやか「きゃあっ!？」

杏子「おおっ、スカートがっ!!」ブンブンブンブン

さやか「ちょ、止めてよ杏子お!!」杏子「おおっ!!おおっ!!おおっ!!」ブンブンブンブンブン

さやか「ちょっ、おさえてらんない……あっ」

杏子「さやパンキタアアアッ!!」ブンブンブンブンブン

さやか「ダメッ、ちょっ、杏子おっ、いやあっ、”見て”えっ!!」

慎「お、スイッチ入ったな」

あかり「マゾ化、だね」

まどか「switch ON!!」

さやか「きゃっ、杏子、もっと!!もっと!!」

杏子「後少しっ……!!」ブンブンブンブンブンブン

さやか「いやっ、でもっ、でもおっ!!ああっ!!」

杏子「おっし全部見えたっ!!」ブンブンブンブンブンブン

ンブン

さやか「もつとおっ！ーもつとおっ！ー！」
杏子「よーし、もつとやってや——」

パリン

慎「え」

マミ「風でスカートがめくれるなら、みんな死ぬしかないじゃない
っ！ー！」

美咲「何その理論！？」

マミ「だって、だってえー！恥ずかしいじゃない！ー！」

あかり「だからってソウルジェム砕くなっ！ー！」

マミ「仕方ないじゃない！ーもし、あれが私だったらって考えると

……ああああっ！ー！」

まどか「うるさい」

パリン

まどか「もーやだよー」↑棒読み

その他「Σ」↑ドン引き

まどか「ひどいよーこんなのってないよー」↑同じく
ほむら「ほむほむう……」

まどか「はっきりに言っておくね。変態はほむらちゃんでも充分。だから消した」

ほむら「ほむっ!？」

美咲「何そのりろおんっ!！」

まどか「なんか言った？」

美咲「いいえ、ケフィアで——」

まどか「なんか言っただけ？」

美咲「言ってます。はい。」

ほむら「ほむっ!！ほむほむっ!！」ブンブン

まどか「そうですねっ」

さやか「はあっ……はあっ……はあっ……あれ、あたし何を……？」

恭介「↑見ていた

さやか「あっ、はあはあ、恭介えっ!？、はあはあ、どうして、はあはあ、ここに!？」

恭介「いや、偶然通りがかっただけで……ごめんね、何も見ていないよ」

さやか「ねえっ、はあはあ、何見たの!？」

恭介「何も見てないよっ!！」↑車いすだーっしゅ

さやか「あ、ちよつと、恭介!？」

さやか「どうしよう、あたし何か変なところ見られた?でも、何も覚えてないし……何っ!？あたしは何してたのっ!？どうしよあたしまずいことしたかな!？」

玲「さやかちゃん、あなたは」
美咲「言わない方がいい幸せってのもあること、覚えといった方がいいよ」

まどか「あ、そうだキュウベえ」

QB「なんだい？」

まどか「蘇生とか、事後処理よろしく」

QB「タダで叶える訳にはいかないよ。それには50え——」

まどか「ねえキュウベえ、お・ね・が・い」

QB「だけどねまどか、僕にも決まりつてものが——」

まどか「宇宙滅ぼすよ？」

QB「謹んでやらせていただきます」

病院

恭介「うわあつ、さやかかわいいよさやか！Mモードもその後の赤くなつて照れてる顔も最高っ！！ああつ、胸が苦しいっ！！恥ずかしがってるさやかとかもう……！！さやかかわいいよお、かわいい

すぎるよおっ！！あ、なんかよだれ出てきた……ああもう食べちゃいたいつ！！さやか食べちゃいたいつ！！食べちゃいたいほどかわいいつ！！でも食べるのだめっ、食べるのは１８歳になってからっ！！ああ待ちきれないよ１８歳！！１８歳になればさやかにあんなことやこんなこと、さらにはそんなことまで……あはははは！！はっ、でも聖女さやか様を汚すわけにもいかないっ！！どうする！？どうする僕！？ああ、今夜は寝れそうにないっ！！うおおおっ、さやかペロペロっ！！さやかペロペロっ！！さやかペロペロおおおっ！！さやかかわいいよおおおおっ！！」

看護師「……すみません、誰か精神科の先生空いてませんか？１人患者さんを——」

終わりっ
♪

c r o s s 2 - 少年少女よ、蒼空のもとで天高く叫べ - (前書き)

相変わらずカオスです。

一応『ブレイズ』『みんな奇』『最新話まで読んでおくことをお勧めします。』

cross2・少年少女よ、蒼空のもとで天高く叫べ・

杏子「あああああああああ！！はあっ、はあっ、どうだ？」

さやか「なんの、あたしだって！！あああああああ！！――はあっ、げげほっ」

あかり「もういいから！！やめようよ！！」

慎「いや、頑張れば……あああああああああ！！、かはあっ……」

玲「私も負けられないわね！！あああああああああ！！――！」

ほむら「ほむっっっっっっっっっっっっっっっっ！！」

あかり「もうボクがビリだから！！それでいいから！！ってかそんなことしてないって！！」

マミ「あら、どうしたの、みんな大声を上げて？」

まどか「あ、マミさん、それが……」

さやか「あーマミさん！！マミさんも『あかりシャウト大会』参加します？」

マミ「『あかり……シャウト大会』？」

杏子「そうそう、なんかさ、『みんな奇』最新話であかりが叫びまくってたじゃねーか」

玲「それでついにあかりにも『絶叫キアラ』がついたってお祝いしたら……」

あかり「——へえ、お祝いつてシチューだのコーンスープだのぶっかけるんだ……シャパンとかじゃなくて」

杏子「そうしたら慎の奴がよー」

マミ「ちよつと待って、今もの凄く斬新なお祝い方法を聞いた気がするのだけれど!？」

杏子「『あんなの絶叫キャラとしてはまだまだだ』とか言い出しやがって」

彩乃「華麗にスルーされたわね……」

美咲「彩乃の存在もね……」

今回より梶原彩乃も参戦

慎「その通りだ!!もつと某狼リマジとか三十路超能力者を見習え!!」

あかり「だから別にボクそんなキャラ要らないって!!」

玲「じゃあこれからもずっと、アッサシンノでいいの!？」

あかり「流石に興味悪い骸骨仮面の全身タイツは嫌だっ!!ってかそんな奴らが百合やつてるアニメなんて見たくないっ!!」

玲「でしよう!?!だったら絶叫の練習をするのよ!!」

あかり「やだっ!!」

杏子「いいだろー、こっちはキャラ付け手伝ってやってるんだぜー」

さやか「——ってことで練習してるうちになんかテンション上がってきて、どうせなら誰が一番うまいか決めることになってた、ってわけです」

杏子「一番の人は全員からうんまい棒を二本ずつ進呈だ!!負けられないぜ!!」

慎「ちなみに提案者は俺な」

ほむら「ほむほむっ」

さやか「っていうわけでマミさんもいきますよーっ」
マミ「えっ、えっ！？ちょっと待って美樹さ——」
さやか「せーのっ」

マミ「てい、ていふいなああええええ！？」↑スペシャルト
クCD参照

さやか「……」

杏子「……」

玲「……」

慎「……」

ほむら「ほむ……」

マミ「えっ！？えっ！？何で!？」

美咲「完全に水。かおりの声だった件について」

杏子「中の人ネタかー」

慎「やったら面白そうなんだけどな、作者があまり詳しくないから無理なんだって」

さやか「メタ発言禁止!!」

まどか「『大丈夫、草加くん?』……」

さやか「無理してやらないっ!!」

まどか「でもさ、叫ぶのってなんか格好いいよね!! 杏子ちゃんの『さやかああああああああ!!』っていつのとか、」
さやか「おいまして」

まどか「後は『ウルトラマンガイア』の藤宮もよく叫んでたよね」

↑代表：26話

慎「ああ、そういえばそんなキャラだったな…普段はクールなのに」
まどか「他にも龍騎TVスペシャルの『戦いを止める』endとか」
マミ「ああ、あれね……」

まどか「シユタゲでオカリンがゲルまゆ見た時とか」

玲「ねえ、さりげなく不幸なのしか上げてくない!？」

杏子「いや、シャウトと言ったらやつば歌だろ!! 『真赤な○○○○○○○○いいっ!!』ってね」

彩乃「歌、ねえ……」

ほむら「ほむ」

一貴「歌詞はやめてくださいね」

玲「そりゃさあ、歌でシャウトと言ったらシャウタ……」

まどか「それは言っちゃいけない約束だよ……」

玲「『Shoutout』、一度もかからなかったからね……」

杏子「それで隠したつもりかよ!？」

玲「後キバのドッガのやつ、『Silent shout』もかかってないわね」

慎「単にOの代わりに。使いたいだけじゃないのか?」

杏子「そうだ」 キュピーン

さやか「なによ、大文字先輩みたいな効果音出して」

杏子「いや、なんつーかな、大きな声を出させるに一番いい方法見つけた気がするんだ、アタシ」

「さやか、何？」

慎「あー読めたな」

一貴「二回連続ですか」

杏子「ふーっ」
↑わきの下に

「さやか「ひゃわっ! ?ちよつと杏子、なにすんのよ! !」

杏子「こちょこちょ」

「さやか、ひゃっはっ！？はっ、あははははははは！」

まどか「わたしもやるーっ♪」

「さやか「えっ！？ちよ、まどか、待ちなさ――」

まどか「こちよこちよ」

「さやか、あははははは！？ま、ははは、まどか、待つて、あはははは！？」

杏子「こちょこちょ」

「さやか、きょうはははははは！」

まどか「こちよこちよ」

杏子「こちょこちょ」

さやか「あははははははは！！」

まどか「んー？」こちよこちよ

「さやか、あはははははははははははははははは！！」

杏子「あれ？」 こちよこちよ

[illegible]

まど杏「覚醒、しない……？」

「さやかはあつ、ひいつ、ひいつ、なにすんのよ……っ！！」

「まどか、何で？」

杏子「分かんねえ」

「まどか、攻撃じゃないから？」

杏子「そついうことなのか？」

「さやか、え、ちよつと何の話……」

まどか「じゃあ攻撃しようか」ガシッ

さやか「うぎゃあっ!？」

慎「こっちが覚醒しやがった!？」

まどか「オラさっさと覚醒しろやコラ」ガッ

さやか「ぎゃうんっ!？」

まだか「どーしたあ！？ 覚醒しろよこの失恋続きの人魚姫が」ゴッ

「さやか or z?」

あかり「うわぁ……言葉と暴力両方で……」

まだか「ほら、反論してみてよ！？」ひとりだけわたしが理になつた後も消えてるし」ドカッ

さやか「あぐおっ……グスッ」

まどか「拳げ句に虚淵さんから「魔法少女に向いてない」（笑）とか言われちゃって」ガスッ

さやか「ぐうつ……グスッグスッ」

美咲「ちょ、ちよっとこれはヤバいんじゃない!？」

慎「どうかしねえと!！」

玲「でもさー、どうやんの?」↑無関心

マミ「うつ」

杏子「でも、このままじゃさやかが『被虐の魔女』になっちまう!」

慎「さりげなく凄い魔女だなそれ!？」

あかり「そうだっ!！」

彩乃「何か思いついたの!？」

あかり「ほむらちゃん、ごめんっ!！」

ほむら「ほむっ!？」↑バックラー奪われる

杏子「おおっ、なんか主人公っぽいじゃねえか!！」

美咲「呼び方も変わってるし……」

あかり「えいっ!！」カチッ

その他「↑停止

あかり「よかった……時間が止まった。亜雲さんのところでやったこの作戦を、もう一度!！」

あかり「えっと、まずはまどかをさやかから引き離し……」「何やってるの?」「……て?」

あかり「ま……まさか……」

まどか「ねーえあかりちゃん、なーにやってるの?」

あかり「Σひええええええええっ!?!?」

まどか「まさかわたしからさやかちゃんを奪おうだなんて考えてないよね?」

あかり「な……なんで……動け……るの……?」

まどか「ごめんねー、あの時は油断しちゃって」

あかり「ふえ……?」

まどか「でも、今のわたしは『理モード』だから、時間干渉は受け付けないんだよ」

あかり「理……モード?」

まどか「そ。まあいわゆる神様かな?だからほら、髪も長くなってるし、今全裸でしょ?」

あかり「文章だけで分かるかあああああ!!そして堂々と『今全裸でしょ?』だなんて言うなこのHENTAIiiiiiiiiiiii!!」

まどか「あゝア?」

あかり「あ……ついツツコミの癖が……」

まどか「……楯突くんじゃねえ消えろ」

あかり「ひっ……」

あかり「勝手に殺すなあああああっ！？そしてなんでお供え物がうんまい棒なのっ!？」

杏子「だって、さっきの叫び声、間違いなく『シャウト大会』優勝じゃねえか」

あかり「まだ続いてたんだあれ!？」

慎「……で、あかりは何で生き返ったんだ？」

あかり「それは……」

「???」『トントントン』

慎「ん？」

QB『僕が……なんとか……』↑外見は一話＋八話参照

慎「まどかか……」

QB『そうだよ……まどかに「一生エントロピー」に関与できなくする」って脅されて……既に2300995012回は殺されたよ……』

杏子「某Mr・ベクトルを軽く越えてやがるっ!？」

まどか「余計なこと言わないでよ」
QB『きゅっぷいー!..?』

おしまいっ

c r o s s 2 - 少年少女よ、蒼空のもとで天高く叫べ - (後書き)

確かに上手く纏まっていけないのは私の責任だ。

だが私は謝らないっ！！(ドヤッ

お粗末様でした……

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5334y/>

ライトオアダークキャラによる邪悪混沌残虐暗黒円環悪魔神戦記

2011年11月30日21時54分発行